

原子炉実験所だより

目次

1. 平成7年度共同利用研究の公募について	1
2. 平成7年度ワークショップ、専門研究会の公募について	1
3. 平成7年度臨界集合体実験装置共同利用研究の公募について	1
4. 京都大学原子炉実験所一般公開について	1
5. 『KURRI Progress Report 1993』の記事の訂正について	2
6. 外国人研究員の受入れについて	3
7. 外国人研究者講演会報告	3
8. 教官の公募について	4
9. 運営委員会委員名簿	5
10. 臨界集合体実験装置共同利用委員会委員名簿	6
11. 職員の異動	6
12. 委員会メモ（平成6年8月～平成6年10月）	6
編集後記	8

1. 平成7年度共同利用研究の公募について

平成7年度の共同利用研究の公募につきましては、既に公募の通知文書を各研究機関、及び平成6年度共同利用研究申請採択者宛に送付しております。締切日は平成6年12月2日（金）（必着）となっていますので十分ご留意願います。

なお、不明の点や申請用紙のご請求は共同利用掛（TEL. 0724-52-0901 内線2151,2152）までご連絡願います。

おって、平成7年10月～平成8年3月の下半期だけの公募通知は改めて行いませんのでご注意下さい。

〔下半期だけの申請の締切日は平成7年6月9日（金）（必着）となっています。〕

2. 平成7年度ワークショップ、 専門研究会の公募について

平成7年度のワークショップ、専門研究会の公募につきましては、来月1月下旬頃各研究機関に公募通知をお送りする予定ですので、ご注意下さい。

3. 平成7年度臨界集合体実験装置 共同利用研究の公募について

平成7年度臨界集合体実験装置共同利用研究の公募を平成7年1月20日（金）を締切日として行っています。公募書類のご請求やご照会は共同利用掛まで。

4. 京都大学原子炉実験所一般公開について

京都大学原子炉実験所では、来年（平成7年）4月、下記の通り一般公開を実施します。多数のご来訪をお待ち致します。また関心をお持ちの方々へご周知下さるようお願い致します。

記

日時：平成7年4月8日（土） 午後1時～4時

場所 : 大阪府泉南郡熊取町野田 京都大学原子炉実験所

行事 ・ 施設見学

臨界集合体棟、原子炉棟（炉室、ホットラボ）、廃棄物処理棟

・ ビデオ上映、展示板掲示

原子炉実験所における研究活動の紹介

申込方法 ・ 団体（10名以上） : 団体名、責任者氏名、連絡先及び電話番号を記載した申込書（書式任意）に見学者名簿を添えてお申し込み下さい（郵送可）

・ 個人 : 当日守衛棟前で受付けます。所定の用紙に氏名等をご記入下さい

受付は、午後 3 時 30 分まで

申込・問合せ先 ☎ 590-04 大阪府泉南郡熊取町野田

京都大学原子炉実験所 総務課庶務掛

TEL (0724) 52-0901 内線 2112

5. 『KURRI Progress Report 1993』

の記事の訂正について

Progress Report 1993 の V. Boards and Personnel で、審議員および運営委員のご氏名等の中で英字のまちがいがありましたので下記のとおり訂正し、お詫びいたします。

出版委員長

誤	正
Nishina, Kohjiro	Nishina, Kojiro
Kasai, Michio	Kasai, Michiki
Abe, Mituyuki	Abe, Mitsuyuki
Matuno, Ryuichi	Matsuno, Ryuichi
Iwata, Mitsuo	Iwata, Nobuo
Ohara, Takao Faculty of Engineering	Kohara, Takao Faculty of Science

6. 外国人研究員の受入れについて

「原子炉実験所だよりNo.25 '94.9」に掲載されました 張 金忠 氏の受入れについては、当初、平成6.8.23 ～ 同6.11.20のところ、下記のとおり変更になりました。

氏 名 (所 属)	国 籍	研 究 題 目	受 入 期 間	備 考
張 金 忠 (中華人民共和国 南開大学生物学系教授)	中 華 人 民 共 和 国	高等植物における 葉緑体の形質転換 と中性子育種に関 する基礎的研究	平成6.10.20 ～同7.1.17	

7. 外国人研究者講演会報告

原子炉利用研究者グループの後援により、下記のとおり講演会が開催されました。

① 平成6年9月22日開催

“The Recent Status of Radiation Chemistry in India”

Dr. V. G. Dedgaonkar

(Poona University, India)

② 平成6年10月18日開催

“Neutron Scattering Experiments and ANS Project in ORNL ”

Dr. J.A. Fernandez-Baca

Oak Ridge National Laboratory, Oak Ridge, U.S.A.

“Solid State Physics Research and Future Research Reactor Plan in Korea”

Dr. Y.S. Yang

Res. Center for Dielectric & Adv. Matt. Phys., Pusan Nat. Univ., Korea

“Neutron Optics Studies and Future Plan in Risø”

Dr. K.N. Clausen

Solid State Physics, Risø National Laboratory, Denmark

“Fundamental Physics with Neutron Interferrometer”

Dr. A. Ioffe

Hahn-Maitner Institute, Berlin, Germany

“Neutron Optics and the Applications”

Dr. T. Krist

Hahn-Maitner Institute, Berlin, Germany

③ 平成6年10月21日開催

“Magnetic Properties and Complex Phase Diagrams of Rare Earth
Incommensurate Systems”

Dr. D. Schmitt

Laboratoire de Magnetisme Louis Neel - CNRS, Grenoble, France

8. 教官の公募について

下記の要項により、教官の公募を行います。

京都大学原子炉実験所は、原子炉による実験及びこれに関連する研究を行うことを目的として設置された全国大学等の共同利用研究所です。当原子炉実験所では、研究炉KURの高度な利用を中心とした研究を行うため、研究組織を再編成し、より活力のある研究所として生まれ変わるよう努力しています。

今回の公募は、その一環として、新しい研究の推進に意欲を持ち、共同利用研究を円滑に行うことにも努力を惜しまない若い人を求めるものです。

公募締切は平成6年12月16日(金)午後5時(必着)です。詳しくは原子炉実験所総務課庶務掛(TEL. 0724-52-0901 内線2111)までご照会下さい。

記

職名及び人数	職務の内容	専門とする学術上の資格に加えて期待される資格等
助手 1名	原子炉等を用いた制御照射場における材料照射効果の研究及び関連する研究設備の開発	博士の学位を有するか、近い将来に取得見込みの方

注：今回募集の助手の任期は5年を超えないものとします。

9. 運営委員会委員名簿

平成6年10月1日現在

(順序不同)

北海道大学	教授	(工学部)	成田正邦
新潟大学	"	(理学部)	橋本哲夫
東京大学	助教授	(医学部)	草間朋子
東京工業大学	教授	(原子炉工学研究所)	藤井靖彦
名古屋大学	助教授	(工学部)	山本洋
大阪大学	"	(")	西澤嘉寿成
"	"	(理学部)	斎藤直
鳴門教育大学	教授	(学校教育学部)	跡部紘三
奈良県立医科大学	"	(医学部)	大西武雄
姫路工業大学	"	(理学部)	小原孝夫
九州大学	"	(工学部)	工藤和彦
放射線医学	障害臨床第四研究室長		
総合研究所	研究室長	(障害臨床研究部)	安藤興一
京都大学	事務局	局長	加藤孝治
"	教授	(原子炉実験所)	藤田薫顕
"	"	(")	森山裕丈
"	"	(")	川瀬洋一
"	"	(")	小野公二
"	"	(")	内海博司
"	"	(")	義家敏正
"	"	(")	岩田豊
"	"	(")	松山奉史
"	助教授	(")	中込良廣
"	"	(")	代谷誠治
"	"	(")	下浦一邦
"	"	(")	松原丘

10. 臨界集合体実験装置共同利用委員会委員名簿

平成6年11月1日現在

(順序不同)

東北大学	助教授	(工学部)	馬場 護
東京大学	教授	()	田中 知
大阪大学	"	()	竹田 敏一
名古屋大学	助教授	()	山根 義宏
九州大学	教授	()	工藤 和彦
東海大学	"	()	阪元 重康
日本原子力研究所	NUCE 建設室次長	(東海研究所安全性試験研究 センターNUCEF計画推進室)	竹下 功
京都大学	教授	(原子炉実験所)	藤田 薫 顕
"	"	()	義家 敏正
"	助教授	()	代谷 誠治

11. 職員の異動

1. 昇任

平成6年11月1日付け 原子炉研究部門 講師 佐藤 肇 司
(同部門助手から)

12. 委員会メモ

(平成6年8月～平成6年10月)

平成6年

- 8月19日 第86回臨界集合体実験装置共同利用委員会(回議)
- 24日 平成6年度第5回原子炉安全委員会
- 9月6日 平成6年度第3回原子炉医療委員会(回議)
- 16日 審議会・協議員会
- 19日 平成6年度第6回原子炉安全委員会
- 22日 平成6年度第2回保健物理委員会

9月22日	臨時協議員会
10月 7日	臨時協議員会
20日	第156回運営委員会
21日	審議会・協議員会
28日	臨時保健物理委員会
28日	平成6年度第7回原子炉安全委員会
28日	臨時協議員会

編 集 後 記

実験所では、現在、所長選考が行われている。2年に一度の所長選考は、ある意味で実験所の進路を左右する重大なイベントである。

近年、いわゆるバブル経済が崩壊し、円高が進行し、不況が長期化する一方、一昨年の冷夏と米の凶作、今年の酷暑と水不足等と、経済の面だけではなく、自然現象の上でも厳しい状況が続いてきた。実験所にとっても、A1評価に始まる長い厳しい時代を過ごしてきた。現所長によると、「実験所は、今ようやく集中治療室から一般病棟に移されようとしている患者である。次期所長には、患者が完全に社会復帰できるように導いて頂きたい」とのことである。

実験所の研究体制は、来年度から6大部門と2研究施設制に移行することがほぼ確定的となった。現所長流に考えると、患者は、将来への展望を持って立派に社会復帰を果たすべく、病気を克服するために本格的な体質改善を行う決意を固め、その一步を踏み出そうとしている。病気を克服できるかどうかは、ひとえに患者の体力と精神力に依存すると言っても過言ではない。しかし、同時に、医師団を含め、患者を取り巻く人々の援助、激励も不可欠である。輸血、手術、リハビリ、場合によっては臓器移植や骨髄移植が必要な場合も有り得る。患者と親しい関係にある方々には、今後とも引き続き、ご協力とご支援を賜りたいと存ずる次第である。